

## 平成 27 年度 第 1 回 SPring-8 ユーザー協同体評議員会 議事録

日時：平成 27 年 5 月 12 日（火）13 時 30 分～14 時 57 分

場所：SPring-8 放射光普及棟 中講堂（兵庫県佐用郡佐用町光都 1-1-1）

出席者：今泉公夫、上村みどり（web 会議）、北川 宏（web 会議）、小原真司、高原 淳（会長）、巽 修平、十倉好紀（web 会議）、中川敦史（利用副委員長）、雨宮慶幸（企画委員長）、石井孝浩、上田和浩、尾嶋正治、坂田修身、櫻井吉晴、鈴木直、堂前和彦、松井純爾（副会長）、水木純一郎、村上洋一（web 会議）、渡邊信久

幹事／西堀英治、高尾正敏、杉本 宏、久保田佳基、佐々木 園、西堀麻衣子、加藤健一、原田慈久

オブザーバー／野田健治、鈴木昌世、大端 通、山下幸二、中瀬達也、津田綾女、垣口伸二、木下豊彦、杉本正吾、石田浩康

事務局／坂川琢磨、上田美菜子

### 1. 会長挨拶

高原会長より挨拶があった。

### 2. 平成 27 年度評議員紹介

平成 27 年度より就任した評議員（任期平成 27-28 年度）の紹介および出席者の挨拶があった。また、平成 27 年度の SPRUC 会長・幹事、利用委員会、代表機関および機関代表者が紹介された。

### 報告事項

#### 3. 平成 26 年度 SPRUC 活動報告

##### 3.1 平成 26 年度 SPRUC 研究会活動状況

原田 SPRUC 庶務幹事より、研究会活動の実績について報告があった。

##### 3.2 SPRUC 企画委員会作業部会報告

・西堀 SPRUC 企画幹事より、放射光科学将来ビジョン作業部会は平成 26 年 4 月 1 日に SPRUC 放射光科学将来ビジョン白書の中間報告を提出して活動を終了した旨報告された。

・中川 SPRUC 研究会組織検討作業部会責任者より、平成 26 年 4 月より研究会組織検討作業部会会員に研究会組織顧問として引き続き研究会活動を支援していただくことになった旨報告があった。

・高尾 SPRUC 大学院連合検討作業部会責任者より、文科省を中心に大学院改革案が出つつある状況であり、その状況を見ながら今後活動を再開する旨報告があった。

### 3.3 平成 26 年度 SPRUC 分野融合型研究ワークショップ開催報告

原田 SPRUC 庶務幹事より、平成 27 年 2 月 19 日に秋葉原コンベンションホールで行われた SPRUC 分野融合型研究ワークショップについて概要報告があった。平成 26 年度に選ばれた「分子機能性材料」「実用」「原子分子生命科学」「ナノデバイス科学」の 4 つの研究グループの研究活動進捗および今後の計画についての発表があり、今後の進め方についての議論がなされた旨報告された。なお各研究グループは 2015B 期より新たにスタートした SPring-8 の「新分野創成利用課題」へ応募することによりビームタイムを取得し、これをもとにした研究展開が想定されている。2015B 期は 5 月 11 日に課題公募が締め切られ、「分子機能性材料」「ナノデバイス科学」の 2 つの分野融合型研究グループから申請が出された。

### 3.4 平成 26 年度決算

久保田 SPRUC 会計幹事より、平成 26 年度 SPRUC 収支決算および SPRUC シンポジウム 2014 会計決算について報告がなされた。

## 審議事項

### 4. SPring-8 シンポジウム 2015 の開催について（含む SPRUC 2015 Young Scientist Award）

・高原 SPring-8 シンポジウム 2015 組織委員長より、SPring-8 シンポジウム 2015 の開催について説明があった。日程は諸事情を考慮した結果、9 月 13 日、14 日の開催が提案され承認された。

・原田庶務幹事より開催趣旨、プログラム案について説明があった。例年の反省から、今年はポスターセッションの時間を長めにとる方針であることが示された。

・原田庶務幹事より SPRUC 2015 Young Scientist Award(YSA)について説明があった。YSA については、昨年度の第一回評議員会において、産業界からの申請の敷居を低くするためにグループでの応募を認める提案がなされたが、あくまで個人会員の推薦のみとし、募集要項に「産業界から積極的な推薦を期待」との文言を入れた旨説明があった。

#### 5. 平成 27 年度の研究会活動予算について

原田庶務幹事より、平成 27 年度の研究会活動予算について説明があった。研究会活動を支えてきた利用懇時代からの繰越金はあと 2, 3 年でなくなる見込みであり、今後の研究会活動経費を確保する必要がある。具体的な方策として、分野融合型研究グループの活動も研究会活動も、JASRI の利用動向調査の一環として行うことにより、活動予算を確保するべく JASRI との間で調整し今後詳細を詰めてゆく旨説明がなされた。

#### 6. 分野融合型研究グループの活動について

原田庶務幹事より、資料に基づき分野融合型研究グループの活動実施スケジュールについて説明があった。

高原会長より、分野融合型研究グループは大型研究資金を取れるようにもっていくことが望ましく、また逆に大型研究資金を取ったところが分野融合型研究グループを形成してゆくことも望ましいとの量研究室からのコメントが紹介された。

#### 7. 平成 27 年度予算案について

久保田会計幹事より平成 27 年度予算案について説明があり、承認された。

配付資料：

資料 1. 平成 27 年度評議員名簿他各種名簿	P1～3
資料 2. 平成 26 年度第 3 回評議員会議事録（案）	P4～6
資料 3. 平成 26 年度 SPRUC 研究会活動状況	P7
資料 4. SPRUC 企画委員会作業部会報告	P8
資料 5. 平成 26 年度 SPRUC 分野融合型研究ワークショップ開催報告	P9～14
資料 6. SPRUC 平成 26 年度決算	P15
資料 7. SPring-8 シンポジウム 2015 の開催について	P16～18
資料 8. SPRUC2015 Young Scientist Award の実施について	P19～21
資料 9. 平成 27 年度活動計画	P22～24
資料 10. 平成 27 年度予算案	P25

以 上